

○岡山理科大学理学部履修規程

(趣旨)

第1条 岡山理科大学理学部履修規程(以下「本規程」という。)は、岡山理科大学学則(以下「学則」という。)第9条に基づき、理学部において開設する授業科目、単位数及び履修方法等について、必要な事項を定める。

(教育課程の編成)

第2条 学則第9条第1項に基づき、学部・学科・専攻の教育目標を達成し、学生の学修効果をあげるため、次の各号の科目区分によって授業科目を編成する。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目は、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を養うため、目的に応じて「ライフ・キャリアデザイン系科目」「人間・社会科学系科目」「科学技術系科目」「外国語系科目」「ブランド系科目」で構成する。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は、専門分野において基礎となる科目及び必要とする科目で構成しており、必修科目、選択必修科目及び選択科目に分類する。

(3) 教職関連科目

教職関連科目は、教育職員免許状を取得するために必要な科目で構成する。

(4) 学芸員関連科目

学芸員関連科目は、学芸員資格を取得するために必要な科目で構成する。

(授業科目の単位数及び必修・選択の別)

第3条 学科・専攻の授業科目の単位数は、学則第11条により、1単位の学修時間を教室内(授業時間)及び教室外(自学自習時間)を合わせて45時間とし、授業の方法に応じて、次のように定める。

(1) 講義及び演習は、授業時間15時間をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技は、授業時間30時間をもって1単位、45時間をもって1.5単位とする。ただし、臨床検査技師及び臨床工学技士資格に関する指定科目の実習は、45時間をもって1単位とする。

2 各学科・専攻において履修する授業科目、単位数及び必修・選択の別は、別表Ⅰのとおりとする。

3 教育職員免許状取得に必要な授業科目、単位数及び必修・選択の別は別表Ⅱのとおりとする。

4 学芸員資格取得に必要な授業科目、単位数及び必修・選択の別は別表Ⅲのとおりとする。

(授業時間)

第4条 本学の授業時間は、次に掲げる時間帯とする。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:10~10:40	10:55~12:25	13:15~14:45	15:00~16:30	16:45~18:15

(授業科目の履修)

第5条 授業科目は、配当された年次において履修するものとする。ただし、配当年次以上の年次においては履修することを妨げない。

2 既に単位を取得した授業科目は履修することができない。

3 同一名称科目を除く他学科や他学部の専門教育科目は、申請により履修することができる。修得した単位の取扱いは第10条に定める。

4 履修登録を行っていない授業科目は、成績評価及び単位認定を行わない。

5 各学期の履修登録・訂正期間終了後は、特別の理由がない限り、履修科目の変更及び追加を認めない。

(履修登録単位数の上限)

第6条 学生が自学自習の時間を確保し、適切に授業科目を履修するため、1年間に履修できる履修登録単位数の上限を49単位とする。

2 前項の履修登録単位数には、次に掲げる授業科目の単位数は算入しない。

<基盤教育科目>

「企業情報特論」「インターンシップA」「インターンシップB」「インターンシップC」「社

会・産業実習」「産業課題研究演習」「グローバル研修A」「グローバル研修B」「グローバル研修C」「ワインプロジェクト実習1」「ワインプロジェクト実習2」「ワインプロジェクト実習3」

＜専門教育科目＞

「教育基礎論」（基礎理学科）、「学習発達論」（基礎理学科）、教員養成プロジェクト関連科目（ただし、動物学科及び化学科教職支援コースを除く。）

＜教職関連科目＞

教職関連科目の全授業科目

＜学芸員関連科目＞

学芸員関連科目の全授業科目

＜単位認定科目＞

「検定英語（上級）」「情報処理セミナーⅠ」「情報セキュリティセミナー」「化学セミナーA」「化学セミナーB」「化学セミナーC」「化学セミナーD」「化学セミナーE」

＜単位互換科目＞

放送大学等、他大学との単位互換科目

- 3 第1項にかかわらず、各学科で前年度（秋入学者においては、前年度秋学期と当年度春学期）の取得単位数が30単位以上、かつ前年度（秋入学者においては、前年度秋学期と当年度春学期）Grade Point Average（以下「GPA」という。）3.0以上の者に対しては、年間57単位まで登録を認める。なお、取得単位数およびGPAには、卒業要件に含まれない科目の単位数は算入しないものとする。

（海外研修・検定試験等による単位認定）

第7条 海外の大学における研修講座並びに語学研修により取得した単位を「岡山理科大学国外研修講座規程」に基づき、次のとおり単位認定を行う。

科目の区分	認定する授業科目名	単位数
基盤教育科目	グローバル研修A	1単位
	グローバル研修B	2単位
	グローバル研修C	3単位

- 2 検定試験による学修を「岡山理科大学 外部検定試験規程」に基づき、次のとおり単位認定を行う。

科目の区分	認定する科目名	単位数
基盤教育科目	検定英語（上級）	2単位
基礎理学科 専門教育科目	情報処理セミナーⅠ	2単位
	情報セキュリティセミナー	2単位
化学科 専門教育科目	化学セミナーA	1単位
	化学セミナーB	2単位
	化学セミナーC	2単位
	化学セミナーD	2単位
	化学セミナーE	2単位

- 3 海外研修、検定試験による単位認定に必要な事項は別に定める。

（単位の認定と学習の評価）

第8条 学則第29条に基づく単位の認定及び第30条に基づく学習の評価は、科目ごとに次の等位（評価基準）によって行う。

評点	評価	判定	Grade Point (GP)
100点～90点	S（秀）	単位認定	4点
89点～80点	A（優）	単位認定	3点
79点～70点	B（良）	単位認定	2点
69点～60点	C（可）	単位認定	1点
59点～0点	D（不可）	単位不認定	0点
受講・受験せず ※	E	単位不認定	0点
合格	O	単位認定	—
不合格	X	単位不認定	—
科目認定	N	単位認定	—

※出席時間数が授業科目における規定時間数の3分の2を超えていない場合又は期末試験等を受験していない場合。

- 2 GPA (Grade Point Average : 履修した科目1単位あたりのGPの平均値) の算出は以下のとおり。

$$\frac{(S \text{ の単位数}) \times 4 + (A \text{ の単位数}) \times 3 + (B \text{ の単位数}) \times 2 + (C \text{ の単位数}) \times 1}{\text{総履修登録単位数}}$$

※小数点第3位以下を切り捨てる。

※総履修登録単位数には、成績評価D、Eの単位数を含む。

※成績評価0、X、Nの単位数は、GPA算出に含めない。

- 3 成績の概況を判断する指標として、GPAを用いる。

GPAによる成績の目安	
4.00～3.00	優秀
2.99～2.00	良好
1.99～1.50	普通
1.49～1.00	やや問題あり
0.99～0.00	相談を要す

- 4 通年制の科目については、前半終了時に成績の中間評価を行い、「H」（現時点では良好）、「I」（努力を要する）、「J」（相当な努力を要する）、「K」（単位修得の可能性なし）で表示し、学習指導上の参考とする。

(進級判定基準)

第9条 1年次から2年次、2年次から3年次、3年次から4年次に進級する際は、以下の進級判定基準を満たすものとする。

1年次→2年次

学科	修得単位数			条件
	基盤教育科目	専門教育科目	合計	
応用数学科	—	10	30	

2年次→3年次

学科		修得単位数			条件
		基盤教育科目	専門教育科目	合計	
応用数学科		—	30	66	
化学科	大学院早期進学コース以外	16	—	70	化学基礎実験、化学実験Ⅰ、化学実験Ⅱをすべて修得すること。
	大学院早期進学コース	20	50	84	2年次までの専門教育科目の必修実験科目および必修講義科目をすべて修得すること。
応用物理学科		—	—	66	基盤教育科目の外国語系科目については、6単位以上修得すること。
基礎理学科		—	—	64	基盤教育科目の外国語系科目については、必修科目を含む4単位以上修得すること。
生物化学科		—	—	70	
臨床生命科学科	基礎医科学コース	—	—	70	専門関連科目を除く、2年次までの実験科目をすべて修得すること。
	臨床科学コース	—	—	70	
動物学科		—	—	60	

3年次→4年次

学科	修得単位数			条件
	基盤教育科目	専門教育科目	合計	
応用数学科	—	70	106	3年次までの必修科目をすべて修得すること。 基盤教育科目の外国語系科目については、卒業要件を満たす6単位以上を修得すること。
化学科	26	70	110	1. 専門教育科目の必修講義科目を16単位以上修得すること。 2. 3年次までの専門教育科目の必修実験科目をすべて修得すること。 3. 所属するプログラムの選択必修科目を4単位以上修得すること。 4. 大学院早期進学コースでは化学特別実験を修得すること。

応用物理学科		—	70	106	1. 3年次までの専門教育科目の必修実験科目をすべて修得すること。 2. 専門教育科目の基礎科目を18単位以上修得すること。
基礎理学科		—	—	104	専門教育科目の基礎科目を28単位以上修得すること。
生物化学科		—	70	108	1. 専門教育科目の必修講義科目（●印の選択必修科目を含む）を20単位以上修得すること。 2. 3年次までの専門教育科目の必修実験科目をすべて修得すること。
臨床生命科学科	基礎医科学コース	—	72	104	専門教育科目の必修講義科目を24単位以上修得すること。
	臨床科学コース	—	—	104	1. 2年次までの必修講義科目をすべて修得すること。 2. 3年次までの臨床科学コース専門科目のうち、解剖学実習、生理学実習、病理学実習、臨床生物化学実習Ⅰおよび臨床生物化学実習Ⅱの5科目すべて修得すること。
動物学科		30	70	104	3年次までの専門教育科目の必修科目と選択必修科目の単位をすべて修得すること。

※基盤教育科目の外国語系科目については、卒業に必要な条件を満たすこと。

※修得単位数合計欄は基盤教育科目、専門教育科目の合計とする。

※基盤教育科目のブランド系科目は6単位までを、進級・卒業に必要な総単位数、基盤教育科目単位数に算入することができる。

ただし、「ワインプロジェクト実習1・2・3」は、卒業・進級に必要な単位に含めることができない。

(卒業要件)

第10条 学則第33条に基づき、本大学に4年以上在学し、別表Ⅰに定める必修科目をすべて修得した上で、科目区分ごとに定める単位数を満たし、合計124単位以上修得した者に対し、卒業を認定する。

科目区分	修得すべき単位数	合計
基盤教育科目	34単位以上 ※外国語系科目は、卒業要件を満たす6単位以上を修得すること。	124単位以上
専門教育科目	80単位以上	

(注)

(1) 必修科目はすべて修得すること。

(2) 基盤教育科目及び専門教育科目の別表Ⅰの備考欄や欄外の条件を満たすこと。

(3) 基盤教育科目ブランド系科目は6単位までを卒業に必要な総単位数、基盤教育科目単位数に算入することができる。

ただし、「ワインプロジェクト実習1・2・3」は、卒業・進級に必要な単位に含めることができない。

(4) 教職関連科目及び学芸員関連科目は、卒業・進級に必要な単位に含めることができない。

(5) 同一名称科目を除く他学科や他学部の専門教育科目は履修することができ、取得した単位は卒業、進級に要する総単位数（卒業所要単位124単位）に含めることができる。

ただし、上記取得単位は、自学科専門教育科目の所要単位数に含めることはできない。

(ブランドプログラムの修了)

第11条 基盤教育科目ブランド系科目においては、プログラム毎に定める条件に基づき、修了を認定する。

2 プログラム毎の修了に必要な条件は別に定める。

(準用)

第12条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は、学則を準用する。

(改廃)

第13条 本規程の改廃は、理学部教授会及び大学協議会の審議を経て、学長が決定する。

- 附 則 本規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
本規程は、平成 28 年度入学生から適用する。
- 附 則 この改正規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
この改正規程は、平成 29 年度入学生から適用する。
- 附 則 この改正規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
この改正規程は、平成 30 年度入学生から適用する。
- 附 則 この改正規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
この改正規程は、平成 31 年度入学生から適用する。
- 附 則 (令和元年 10 月 23 日 第 7 回大学協議会)
この改正規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
この改正規程は、令和 2 年度入学生から適用する。
- 附 則 (令和 3 年 3 月 24 日 第 12 回大学協議会)
この改正規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
この改正規程は、令和 3 年度入学生から適用する。